

令和4年産 麦類技術情報 第6号

令和4年6月17日

宮城県美里農業改良普及センター

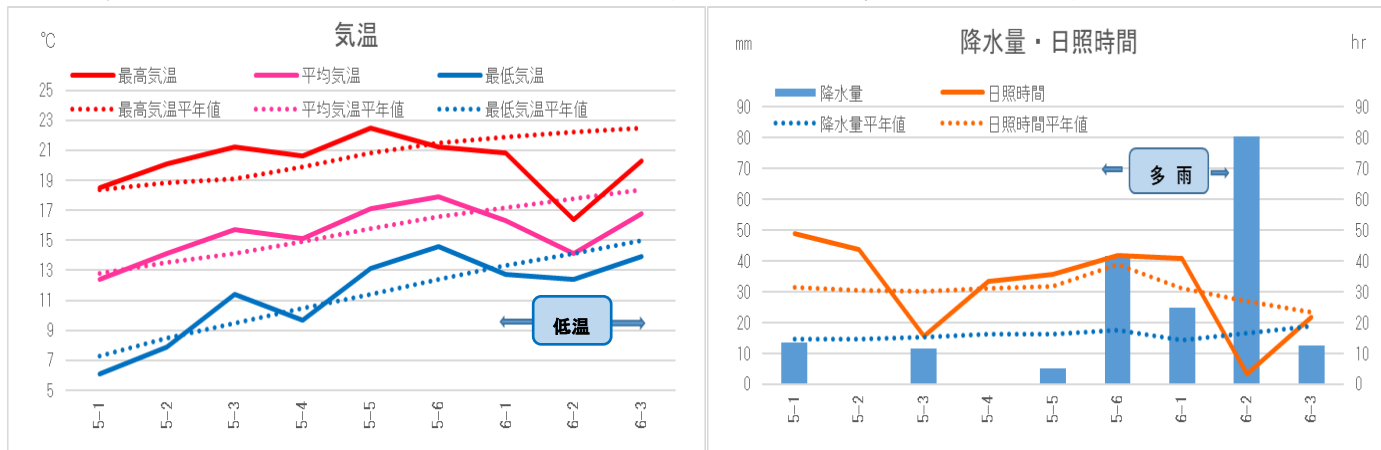
TEL 0229-32-3115 FAX 0229-32-2225

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1 気象経過（5月第1半旬～6月第3半旬）

東北南部は6月15日に梅雨入りしました。（前年差▲4日，平年差+3日）



2 生育概況

6月上～中旬は、降雨や低温の日が多くなりましたが、管内の大麦の収穫作業は14日頃から始まっています。

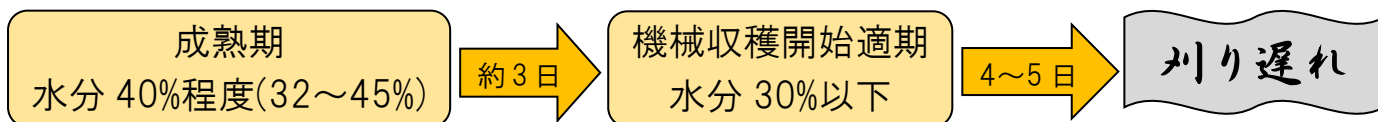
管内85カ所の小麦の穂水分測定の結果から、成熟期に達するのは6月20日～7月2日頃、平均は6月24日頃となり、昨年産より6日程度遅くなっています。

大麦、小麦とも、6月第1半旬の降雨により、倒伏が見られるほ場があります。

3 今後の管理について

◆成熟期と刈取適期について

麦類は、早刈りでは選別不良や損傷粒の発生、刈り遅れでは倒伏や穂切れによる収量損失や赤かび粒や穂発芽粒、低アミロ麦などが増加して品質低下する恐れが大きくなります。麦類の刈取適期は4～5日と短いため、早急に刈取準備を進めるとともに、ほ場ごとの登熟状況を確認して適期収穫に努めましょう。



◆赤かび病について

6月9日発表の県病害虫防除所の発生速報では、赤かび病発生量は「平年並」となっていますが、管内でも夏黄金で発生が確認されています。最も感染しやすいのは開花期ですが、その後の降雨や多湿条件も発生を助長することが分かっています。農産物検査規格での赤かび粒混入限度は「0.0%」と厳しいため、収穫前にほ場ごとの発生状況を確認し、必要に応じて刈分等を検討しましょう。また、赤かび病のカビ毒(DON)については、刈り遅れで含有濃度が高まるとされており、発生ほ場では、より一層の適期収穫に努めましょう。

◇◇◇農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◇◇◇
◇◇◇農作業安全確認運動実施中（4月1日～6月30日）◇◇◇